



2024 年度
第 51 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
出馬宣言か言い訳か
体育市民連帯
「3 選挑戦」李ギフンを
正面から批判



2
体育会長選挙まで
約半月…
一本化
本当に終わったのか



3
「体育大統領」競争
本格的に突入…
各候補の公約の
キーワードは？



4
私たちは奴隷ではない
過酷行為被害者の
大きな声
体育界に根ざすことを



5
バドミントン協会長の
解任
1 カ月以内に
履行すべき

6
李ビョン Chol
前会長
資格停止 8 カ月
軽い処罰

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



*

尊敬する市民の皆様

2025 年の希望に満ちた新年が明けました！

この 1 年間、体育の価値を守り、健康な社会を作るために共に努力して下さった皆様に深い感謝の挨拶を申し上げます。

皆さんの情熱と献身のおかげで、私たちの連帯がより大きな力を発揮することができます。

新年には私たちの声がより一層広がり、体育を通じて疎通と連帯を成し遂げられる一年になることを願います。

2025 年にも皆さんの健康と幸せを祈り、体育市民連帯がより良い未来のために進むことができるように共にして下さるようお願いいたします。

「健康な体育、健康な社会」のために今年も変わらず努力します。

新年明けましておめでとうございます！

体育市民連帯



존경하는 시민 여러분.

2025년의 희망찬 새해가 밝았습니다!

지난 한 해 동안 체육의 가치를 지키고,
건강한 사회를 만들기 위해 함께 노력해 주신
여러분께 깊은 감사의 인사를 드립니다.
여러분의 열정과 헌신 덕분에
우리 연대가 더 큰 힘을 발휘할 수 있었습니다.

새해에는 우리의 목소리가 더욱 널리 퍼지고,
체육을 통해 소통과 연대를 이룰 수 있는
한 해가 되기를 바랍니다.

2025년에도 여러분의 건강과 행복을 기원하며,
체육시민연대가 보다 나은 미래를 위해 나아갈 수 있도록
함께 해주시길 부탁드립니다.

“건강한 체육, 건강한 사회”를 위해
올해도 변함없이 노력하겠습니다.

새해 복 많이 받으세요!

체육시민연대

01 体育市民連帯論評 鄭モンギョ会長に問う。サッカーは誰のものか？

2024年12月19日。ソウル鍾路区ポニージョン財団で開かれた大韓サッカー協会鄭モンギョ現会長の第

01 イーデイリー 2024.12.24

出馬宣言か言い訳か 体育市民連帯、「3選挑戦」李ギフンを正面から批判



李ギフン大韓体育会長が記者会見を開き、3選への挑戦を宣言した中、体育市民団体が批判の立場を示した。

体育市民連帯は24日「大韓体育会長候補の李ギフン、出馬宣言か、弁解か」という論評を出した。

体育市民連帯は「李ギフンの出馬宣言と記者の質問に対する彼の答えを聞きながら、最近相次いで再任出馬を宣言した大韓サッカー協会の鄭モンギョ会長と大韓バドミントン協会の金テクギョ会長が思い浮かんだ」とし「国民の退陣要求などは軽く無視して、一様に名誉回復を叫び、再任だけが名誉回復の道であることを自任する体育界リーダーたちの誤った認識は、どうしてこのように同じことができるのか」と批判した。

また「李ギフンは政府高位関係者の次期会長推薦を拒否し、李ギフン本人が『誰も触れない』候補を推薦したと明らかにした。いったい政府の高位関係者と李ギフン自身はどんな権限を持つ者なので次期会長を牛耳るという話なのか」として「彼らが推薦すれば体育人の民意と関係なく会長になったりするという話なのか。これまで彼らが体育界をどれだけ私有化したり、そうしようとしてきたのか問わざるを得ない」と指摘した。

体育市民連帯は「李ギフンは出馬宣言でこれまで自分の治績だとし、オリンピック、アジア大会、指導者処遇改善、協会行政の正常化に数多くのことをしたとし、一々羅列した」とし「彼の発言で現場の汗を流した指導者や選手たちの血と汗が混じった努力は言及さえなく、皆自分がやり遂げたことであるかのように装うのに忙しかった」と言及した。

以下は体育市民連帯が発表した論評全文。

論評：大韓体育会長候補の李ギフン、出馬宣言か言い訳か

大韓体育会長選挙登録を翌日に控え、現大韓体育会長李ギフンは多くの記者の前で次期会長出馬を宣言し、今退くことは現状況を認めることであるため、これを正すために次期会長に出馬するという宣言をした。

それと共に彼は退く考えもあったが、現政権が「自分を身動きが取れなくコーナーに追い込むため」にそうすることができなかつたとし、今はすべてを正し自身が計画していた体育発展のために投身するという抱負を明らかにした。

李ギフンの出馬宣言と記者の質問に対する彼の答えを聞きながら、最近相次いで再任出馬を宣言した大韓サッカー協会の鄭モンギョ会長と大韓バドミントン協会の金テクギョ会長が思い浮かんだ。国民の退陣要求などは軽く無視し、一様に名誉回復を叫び、再任だけが名誉回復の道であることを自任する体育界のリーダーたちの誤った認識は、どうしてこのように同じなのか？

また、李ギフンは政府高位関係者の次期会長推薦を拒否し、李ギフン本人が「誰も触れない」候補を推薦したと明らかにした。一体政府の高官と李ギフン自身はどんな権限を持つ者なので、次期会長を牛耳るといえるのか？ 彼らが推薦すれば体育人たちの民意と関係なく会長になったりするということか？ これまで彼らが体育界をどれほど私有化したり、そうしようとしてきたのか問わざるを得ない。

李ギフンは出馬宣言で、「これまでの自分の功績だ」とし、「五輪、アジア大会、指導者処遇の改善、協会行政の正常化に多くのことをした」とし、一つ一つ羅列した。彼の発言で、現場の汗を流した指導者や選手たちの血と汗が混じった努力は言及すらなく、皆自分がやり遂げたことであるかのように装うのに忙しかった。しかし、そのすべてのことは、大韓体育会が予想した成果をはるかに超えて慌てたパリ五輪でも見たように、自分が意図して実行した体育行政の成果ではなく、選手たちが自ら成し遂げた成果であることを知るべきだろう。

李ギフン氏がしたことは、IOC委員のセルフ推薦、会長再任規定の改正の試み、スポーツ公正委員会の掌握と再任承認、有力者に対する政治力の発揮、私的な席で国会議員の悪口、そしてこのすべてを誰の干渉なしに享受したい独立性の強調、すなわち個人の栄達と組織私有化に向けた努力だけだ。彼が推進している国家スポーツ委員会もスポーツ基本法に明示された首相室傘下の国家スポーツ政策委員会を無力化し、自分が枠組みを作った国家スポーツ委員会を通じて政府の干渉をなくそうとする姑息な手に過ぎないということを知らない人はいない。

それだけでなく、彼が吐き出した最低学力制をはじめとするスポーツ改革課題に対する問題意識は、彼の中長期的な体育の発展、いや生存のための巨視的な感覚が全くないことを表わした。市道体育会に対する政府の予算直接交付問題も「後で精算ができない」という冗談を言って、結局体育会に残念なことを言うという豪語に彼がどれほどこの社会のシステムを軽視するのかよく示したと評価する。当選後、起訴にも裁判を受ければ良いという厚かましい発言、体育会労組の退陣要求に「100%理解」とし、オリンピック成果にもあらゆる監査と調査に苦しめられているのでどれほど傷心が大きいかというネロナムブル（訳注：自分がすればロマンス、他人がすれば不倫、の略語で他人がすれば非難するが自分がする時は合理化する態度を表す言葉）、IOC委員再選のための細部計画を全て明らかにしながらも私心がないという主張に言葉を失った。

彼は、自分の名誉のために再出馬を宣言するのではなく、体育会で会長が行ったことを收拾するために昼夜を問わず努力する職員たち、日々腐っていく草の根体育の現実、到底理解しがたい旧時代のリーダーシップと新しい世代の葛藤、体育会の私有化に対する深刻な憂慮を払拭するために、今からでも候補辞退を宣言し、一日も早く自らよく準備しておいた江原道麟蹄郡三南面に入り、経典を読みながら時間を過ごさなければならない。

出典：<https://m.edaily.co.kr/News/Read?newsId=01252966639121800&mediaCodeNo=258>

02 スポーツワールド 2024. 12. 27

体育会長選挙まで約半月…… 一本化、本当に終わったのか

「韓国体育の改革に向けた決断か、寄託金 7000 万ウォンか。」



公式的な候補者登録は終わったが、一本化の可能性は依然として開かれている。しかし、自分のものを捨てる決断が伴わなければならない。

第42代大韓体育会長選挙の候補者が決まった。計6人の候補が出馬を表明した。「反李ギフン」候補の大々的な一本化は失敗した。出馬を宣言した朴チャンボム前大韓郵趣協会長が姜シンウク檀国大学名誉教授を支持宣言し、部分的に行われたただけだ。一本化が完全に霧散したわけではない。投票日の来年1月14日までに辞退と支持宣言がなされるなら、連帯が可能だ。しかし、現在まで一本化の可能性を残した候補は、姜テソンソウル市体育会長だけだ。彼は「体育会が必要とする会長に団結できるならば一本化しなければならない。様々な角度で悩んでいる」と伝えた。

大半の候補は一本化に懐疑的だ。一本化論議に参加した柳スンミン（前）大韓卓球協会長は26日、記者会見で「一本化の可能性は希薄だと思う」と言い切った。彼は「一本化を推進した方々に公正で誰もが納得できる一本化方式を提案した。その方式で候補たちとの異見があった」と伝えた。続けて「単一化方式と関連して皆が共感できる方式が出てくるならばいつでも応じる準備ができているが、単一化だけに集中すれば体育人たちに私の心を伝達しにくいという気がした」と強調した。

オ・ジュヨン前大韓セパタクロー協会長とキム・ヨンジュ前江原道体育会事務処長は当初から一本化に反対した。

一本化が不可能な現実的な理由もある。まさに寄託金7000万ウォンだ。候補登録をした以上、一本化が実現するためには候補が辞退するしかない。候補から辞退すれば、候補登録のために納めた寄託金7000万ウォンを返してもらうことができない。

大韓体育会の選挙管理規定によると、寄託金を返してもらうためには、▲当選者になった場合▲候補者が有効投票総数の20%以上を得票した場合▲候補者が死亡した場合しかない。

実際、2021年第41代体育会長選挙当時にも一本化 이슈が現れた。当時、李会長が過半数に近い46.35%の得票率で再選に成功した。姜シンウク候補が25.68%、李ジョンゴル候補が21.43%の得票率を記録した。当時、一本化に成功していたら、結果が変わることもあった。李会長の当選を防げなかった人々は選挙で失敗したが、得票率20%を越え寄託金を返してもらうことができた。

体育界関係者は「一本化がなされるためには候補が辞退する方式しかないが、寄託金のように付加的な要因により一本化が容易ではない」と予想した。

スポーツ人権特別調査団長を歴任したキム・ヒョンス体育市民連帯執行委員長は「皆漁夫の利を狙っている」として「候補6人の乱立構図が続くならば、その前の任期8年間に菜園をよく手入れしておいたイ・ギフン候補に勝つことは容易ではないだろう」と見通した。

出典：<https://www.sportsworldi.com/newsView/20241226515197>

03 イーデイリー 2024.12.30

「体育大統領」競争、本格的に突入…各候補の公約のキーワードは？



「体育大統領」と呼ばれる第42代大韓体育会長選挙が本格的な競争に突入した。29日、大学体育会によると、候補登録の締め切り日だった25日までに挑戦状を突きつけた候補は計6人だ。

当選3回を狙う李ギフン（69）現会長をはじめ、金ヨンジュ（63）前江原道体育会事務処長、柳スンミン（42）前大韓卓球協会長、姜テソン（75）ソウル市体育会長、呉ジュヨン（39）前大韓セパタクロー協会長、姜シンウク檀国大学名誉教授が出馬を公式宣言した。

記号は登録締め切り後、抽選を通じて1番の李ギフン、2番の金ヨンジュ、3番の柳スンミン、4番のカン・テソン、5番のオ・ジュヨン、6番のカン・シンウクに決まった。これら6人の候補は本格的な選挙戦に突入し、選挙日の来年1月14日の前日まで、スポーツ関係者の心をつかむために熱心に走る予定だ。

李ギフン候補は「変化」と「責任」を強調した。彼は23日、出馬記者会見で「大韓民国体育の変化、体育人と完成します」というスローガンを掲げた。彼は「体育会が対内外的挑戦に直面しているが、度外視するには無責任だという気がした」として「大韓民国のすべての権力機関が全て調査に乗り出した状況で何事もなかったかのように行くことができず、整理しなければならないと考えた」と強調した。

体育界では「変化」の対象にならなければならない李ギフン候補が「変化を導く」と声を高めることに対する反発も侮れない。本人を巡る司法リスク疑惑をどれほど解消するかが選挙戦で核心争点になる展望だ。

江原道体育会事務処長出身の金ヨンジュ候補は、選手や指導者、行政家をあまねく経験したことを強調している。「体育庁」新設、市郡区体育会予算法制化などを約束した。特に3選挑戦に出た李ギフン現会長を狙った「大韓体育会長3選再任禁止」公約が目につく。

2004年アテネ五輪卓球男子シングルス金メダリストで国際オリンピック委員会（IOC）選手委員と大韓卓球協会会長を歴任した柳スンミン候補は「大韓民国体育の解決者になる」という出師の表を投げた。彼は「IOC選手委員選挙の時も、（04年アテネ五輪卓球男子シングルスの）王皓と決勝戦の時も皆が簡単ではないと言ったが、すべて勝った」と自信を示した。

現ソウル市体育会長でありBYNブラックヤクグループを率いているカン・テソン候補は「スポーツ大統領ではなく『経営人』になる」として『『体育会を必要とする会長』ではなく、『体育会が必要とする会長』になる」という意を明らかにした。特に、2036年夏季五輪誘致公約を最も積極的に掲げて注目を集めている。

39歳で6人の候補の中で最も若いオ・ジュヨン候補は「体育に借りがないきれいな候補」という点を前面に出している。若さと覇気で変化と改革を推進するという覚悟だ。体育行政の革新、エリート体育および生活体育の活性化などが主な公約だ。最年少候補らしく、若年層有権者の票心を攻略するためのショート（短い映像）を積極的に活用する計画だ。

ホッケー出身で檀国大学で長い間弟子たちを育てたカン・シンウク候補は、豊富な経験と貫禄が強みとしている。第41代体育会長選挙で2位に落選した後、この4年間、底辺への票心を固めてきた資産をもとに、体育関係者の心をつかもうとする。彼は「非正常になった体育界を正常に戻す」という抱負を明らかにした。体育会長への出馬を宣言し、一本化を宣言して辞退した後、姜候補選挙キャンプの常任選対本部長を務めた朴チャンボム（55）前大韓武州協会長の支援も、姜候補には肯定的な要素だ。

一方、第42代大韓体育会長選挙は来年1月14日午後1時からソウル松坡区オリンピック公園オリンピックホールで行われる。会員種目団体、市道および市郡区体育会の役員、選手、指導者、審判、選手管理担当者など各地域、種目、職群別の無作為抽選で選ばれた選挙人団2244人が投票に参加する。

出典：<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01082406639123768&mediaCodeNo=258>

04 スポーツソウル 2024. 12. 29

「私たちは奴隷ではない」過酷行為被害者の大きな声、体育界に根ざすことを



「事務局の職員は会員団体に奉仕する奴隷ではない。 厳然たる職場であり、「暮らしの基盤」であることを知ってほしい」

最近「過酷行為」論難がふくらんだ韓国プロゴルフ協会 (KPGA) 被害職員の涙の濃い訴えだ。 会員（選手）たちの団体である KPGA で非会員である事務局職員に対する処遇がどれほど不合理だったかを押し量ることができる部分だ。

その上、KPGA の首長であるキム・ウォンソプ会長は「事態の深刻性」を一步遅れて悟った。 キム会長は「過酷行為」被害職員を無視したまま形式的な加害者懲戒と謝罪文を出し「論難防止」に汲々とした。「責任」は負わないという意図が多分に敷かれた。 ますます見ものになった。

約 1 年間続いたある役員の悪口・暴言・脅迫など苛酷行為は被害職員の「極端な選択」という考えまで追い込んだ。 被害者が 11 月 18 日、このような事実を KPGA に申告した後も、該当役員の 2 次加害が堂々と行われた。

1 か月があっという間に過ぎた。 世間に知られていなかったら、そのまま埋もれていたかもしれない。 キム会長は 19 日、言論に報道された後、一週間が過ぎてから被害職員を含む全職員を呼び頭を下げて謝った。「望ましくないことに対して重い気持ちで謝罪する。 絶対にあってはならないことなので、大きな責任を感じる」と述べた。

キム会長の「真正性」に疑問符ができる。 なぜ早急な謝罪と支援策がなされなかったのか。 23 日、KPGA は協会名で形式的な謝罪文を発表した。 だが、被害職員に対する謝罪や支援策が抜けた「抜け殻」であった。 該当事件がスポーツ倫理センターに申告・受付され論難がさらに大きくなるや、キム会長は被害職員に対する謝罪と事件収拾に乗り出したのだ。

問題は加害役員に「過酷行為」にあった被害者がさらにいるということだ。 先月に初めて申告されたが、すでに昨年からの該当役員の暴言・悪口が行われてきたことが分かった。

KPGA のある職員は「昨年 11 月 23 日、キム・ウォンソプ会長が当選した以後、引継ぎ委員会活動期間にも該当役員の苛酷行為があったことが分かった」として「当時、何人かの職員が該当役員の『職員を対象に頻繁な悪口および暴言、いじめ』等に対する深刻性を陳述したが、当時の引継ぎ委員 (相当数が現経営陣) がこれを黙認した」と批判した。

初期に対応できなかった。 結局、爆発するところが爆発した。 それでもキム会長は論難が広がると、やむを得ず「責任」を感じると話した。 だからといって、被害者支援策や具体的な再発防止対策を明確にしたわけでもない。「いい色のアンズ」のようなものだ。

これは単に KPGA だけの問題ではない。 韓国体育界に蔓延している持病だ。 スポーツ業界従事者の人権問題だけでなく、体育団体長の腐敗、不正などが横行する。 文化体育観光部 (文体部) が最近、国民権益委員会が発表した「公共機関総合清廉度評価」で清廉度最下位評価を受けた理由もここにある。 文体部の柳インチョン長官が叫んだ体育界の改革と刷新は、口先だけの虚像だという指摘を避けられない。

今回の KPGA 「過酷行為」論難は終わりではなく始まりだ。 このような非常識な「過酷行為」が他の体育団体では起きないと断言できない。 今この瞬間にも誰かは暴言・悪口により「絶望」に陥っていることも

ありうる。KPGA 苛酷行為事件がスポーツ団体の偽計パワハラ行為などに対する警鐘を鳴らす契機になることを願う。

出典：<https://www.sportsseoul.com/news/read/1486328?ref=naver>

05 イートウデイ 2024.12.30

バドミントン協会長の解任、1カ月以内に履行すべき



文化体育観光部が補助金法違反の疑いが持たれているバドミントン協会のキム・テクギュ会長の解任を1カ月以内に履行せよと再度要求した。また、非国家代表選手の国際大会出場制限を廃止し、公正性をめぐる議論となったダブルスの国家代表選抜方式も改善した。

30日、文体部は2024パリオリンピック金メダリストアン・セヨンの「決心発言」を契機に大韓バドミントン協会運営全般を調べた10月調査結果に対する関係機関の後続措置状況をこのように発表した。

まず、国家代表活動期間5年を満了し、一定年齢（男性28歳、女性27歳）以上の非国家代表選手だけが国際大会に出場できるようにした規制を廃止した。

問題になったバドミントンダブルスの国家代表選抜方式も改善した。競技力70%、評価委員評価点数30%で選抜する現行制度が、実力よりは運が大きく作用し、不公正な選抜を可能にするという問題意識が選手たちの間にあった。

これを受け、従来の評価委員の主観的評価点数30%を廃止した。世界ランキングによる優先選抜範囲も、従来のシングルス16位、ダブルス8位からシングルス24位、ダブルス12位に拡大した。

国家代表ユニフォームに選手のスポンサーロゴ露出制限も解決された。文体部の発表後、2人の選手がユニフォームに個人スポンサーのロゴを露出した。

2023年、国家代表選手たちに未払いのスポンサーの選手団褒賞金計6400万ウォンも、先月30日に開かれた2024年パリ五輪バドミントン国家代表選手団褒賞式で支給された。

この他にも△外出・外泊時の選手の意見を最大限反映△協会メイン後援社は入札公告を通じて選定△後援業者の公認球指定、協会物品管理、業務推進費使用なども改善された。

文体部「相応の措置を取らない場合、特段の措置を推進」

一方、選手の競技用品使用の選択権保障は改善が進行中だ。競技力に影響を及ぼすラケット、靴、プロテクターなどを選手たちが自由に選択できるように協会と後援会社が協議中だ。

2020年、国家代表選手団に支給されなかった後援会社の後援金の配分金（約1億1500万ウォン）も、該当年度の活動期間を考慮し、来年2月中に支給する予定だ。当時、協会は「国家代表運営指針」により、全体後援金の20%を国家代表選手団に競技力成果費として配分する条項があったにもかかわらず、選手団に支給しなかった。

文体部は協会が提起した異議申請3件に対しては全て棄却を決めた。協会はキム・テクギュ会長が協会のお金で物品を購入しながらいわゆる「ペイバック」を受け取り任意に使った行為など補助金法違反疑惑と役員成功報酬支給に対して異議申請をしたが、文体部は受け入れなかった。

文体部によれば、昨年キム会長はラケット・シャトルコックなど物品を購入しながら協会職員らに内緒で後援物品支給契約を口頭で締結した。以後、約1億5000万ウォン規模の物品を受け取ったが、協会はこのように受け取った物品を公式手続きなしに配布した。

文化体育観光部は来年1月初めから補助金法違反額還収および制裁付加金賦課を直ちに進行する。この手続きは事前通知、補助金交付決定取り消しおよび返還命令、補助金不正受給審議委員会などで構成される。また「会長解任」、「事務処長重懲戒」は1ヶ月以内、「役員成功報酬の協会財政で返却措置およびマーケティング規定改正」は2ヶ月以内に履行することを再要求する予定だ。

文体部関係者は「協会が処理期間内に責任ある者に対して相応の措置を取らない場合、10月末に発表した通り特段の措置を推進する」と明らかにした。

出典：<https://www.etoday.co.kr/news/view/2433329>

06 済州 MBC 2024. 12. 24

李ビョン Chol 前会長、資格停止 8 カ月……「軽い処罰」



◀ アンカー ▶

済州 MBC 連続報道で職場内いじめの判定を受けて退いた李ビョン Chol 前済州市体育会長に資格停止 8 ヶ月の懲戒が下されました。

だが、被害職員たちは懲戒を決定したスポーツ公正委員会の委員たちが李前会長が委嘱した人々で構成され、「軽い処罰が出た」と反発しています。

パク・ジュヨン記者が取材しました。

◀ レポート ▶

職員に家族が運営する花屋の配達の仕事をさせ、週末の慶弔に職員を動員してパワハラ論議を呼んだ李ビョン Chol 元済州市体育会長。

雇用労働部と文化体育観光部スポーツ倫理センター調査結果、12 件と 11 件ずつ職場内いじめがすべて認められました。

特に、沙羅峰多目的体育館を孫娘が利用できるように先取りした疑惑も会長の地位を利用したとパワハラと認められました。

文体部は暴力と人権侵害、いじめを理由に大韓体育会に懲戒を要請し、済州市体育会はスポーツ公正委員会を開き李前会長に対して人権侵害といじめで資格停止 8 ヶ月を処分しました。

だが、被害者である職員たちは「軽い処罰だ」と反発しています。

スポーツ公正委員会の規定によると常習的な言語暴力と人権侵害の場合、それぞれ資格停止 1 年以上である上に常習的ないじめも 6 ヶ月以上なので最低資格停止 2 年 6 ヶ月以上出なければならないということです。

特に、今回懲戒を下したスポーツ公正委員会の委員 8 名はいずれも李ビョン Chol 前会長が委嘱した人たちで、すでに自ら辞退した李会長に効力のない処分を下したと主張しました。

済州市体育会被害職員「結果に対して相当な失望感を感じています。懲戒容疑者が構成した委員たちを通じて懲戒手続きがなされたので、私たちが考えたほどの公正性が確保されたとは見えません。」

被害職員たちは李前会長への懲戒処分について済州島体育会に再審を申請すると明らかにしました。
一方、李ビョン Chol 前会長は反論権を保障するための数回の連絡にも何の返事もありませんでした。
出典：https://jejumbc.com/article/ai6N_SyezuBF01CaK

07 週間スポーツニュース

慶尚南道テコンドー協会 A 会長当選者、昌寧・テコンドー会長選挙の特定人物への支持強要をめぐる議論
<https://www.fntoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=342079>

【済州航空惨事】体育会長候補ら、惨事の哀悼行列に参加
<https://www.yna.co.kr/view/AKR20241230036801007?input=1195m>

松坡区、ソウル自治区初の生活体育指導者号俸制導入
<https://www.munhwa.com/news/view.html?no=2024123001039927301001>

体育会長候補カン・シンウク選挙キャンプ場所…「体育会の首長を変えよう」
<https://www.yna.co.kr/view/AKR20241228023300007?input=1195m>

「スマートスコア」を育てた 541 億韓国スポーツファンド
<https://www.hankyung.com/article/2024122949121>

「スポーツ界の不条理打破」金色スマッシュ…希望を見た
<https://www.khan.co.kr/article/202412292050005>

体育の知恵で造成した「明日が輝く光州体育」
<http://www.jnilbo.com/75788654878>

国民の 69.5% 「李起興（イ・ギフン）大韓体育会長当選 3 回に反対」
https://www.news1.com/view/NISX20241224_0003009166

選挙キャンプ延岡シンウク体育会長候補「変化の始まり」宣言
https://www.pressian.com/pages/articles/2024122913511088309?utm_source=naver&utm_medium=search

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>